

長野県木曾青峰高等学校

〒397-8571 長野県木曾郡木曾町福島1827-2 ☎0264-22-2119

活動団体 里山部(課題研究) 活動人数 6人 主な活動時間 授業の一環として/休み時間や放課後

青峰里山プロジェクト Seiho Satoyama Project

きっかけ

県内で最も高齢化率が高い長野県木曾郡は、農家の高齢化が進み耕作放棄地が増加している。このため、豊かな里山環境を保全し次代に引き継ぐことが大きな課題となり、2018年に先輩による農地再生プロジェクトがスタートした。

2021年には青峰里山プロジェクトへと発展。年間を通し小さな里山の管理を行うことで、農業や林業を身近に体験できる活動となり、地域の先輩に農地再生や獣害対策の指導を受け、遊休農地を有効活用して農産物を栽培することで、人の手により管理しながら自然と人間が共存できる環境づくりに取り組んでいる。



15年ぶりに水稲栽培も再開し多様な命を育む里山づくりが進展。

活動内容

活動は、増加する遊休農地による獣害や環境悪化の対策として始動し、農地を再生して「青峰ガーデン」が誕生。2021年には青峰里山プロジェクトとして、周囲の遊休農地やビオトープを整備して、生き物や植物などを調査し地元保育園児や小学生に紹介する「里山教室」を実施した。

2022年は15年ぶりに水稲栽培が再開され、地元農家の指導のもと、小学生と田植え、栽培、収穫などを通して水田再生や里山保全について学び、生き物調査も実施した。また、草刈りなどの日々の里山整備活動を紹介するため、動画を作成して地域の子どもたちにもわかりやすく伝える活動も展開。高校生にも、SNSを通して活動を身近に感じてもらう工夫をされており、持続可能な環境保全技術を次代に継承することを目指している。



地域の人の指導で獣害対策にも取り組み成果をあげている。

成果

活動を通して環境保全について地域の先輩から学び、生き物調査では草が水田になることで水生生物が集まる様子が観察でき、多様な生命を育む里山の価値が実感できた。また、全国ユース環境活動発表大会や信州ESDコンソーシアム成果発表などで、活動の成果を全国に発信することができた。

活動エピソード

水田の再生に伴い、平地水田と山際水田の水稲生育を比較した栽培調査を実施したことで、再生した「山際水田の課題と価値」が見えてきた。日照条件の違いもあり、山際水田は栽培環境としては厳しい条件にあるが、多様な生き物を育む環境として新しい付加価値を提案できる成果が得られた。

今後の展望

生徒たちは、活動を県内外に発信し、里山やそこに暮らす生き物たちを育む環境の素晴らしさを広く伝え、自然を活かした里山暮らしを提案したいと考えている。そのため、これからも里山を守る仲間を増やし、森林の荒廃や地球温暖化を食い止めることを目指していく。